

# 大学生との食育に関する意見交換会開催概要

～食の大切さを農業とともに考えよう～

日 時：平成23年12月9日（金） 13:10～14:40

場 所：国立大学法人高知大学

参加者：31名（高知大学教育学部学生、教員）

主 催：中国四国農政局高知地域センター

協 力：国立大学法人高知大学

概 要

- 1 講演 食農教育の有識者による講演  
「自給自足の体験が育むもの」  
(三原市立南方小学校校長 東 佐都子氏)



## 《講演要旨》

- ・最近、もったいないという言葉が聞かれなくなってきた。感謝の気持ち、それからお陰様でとか。いつか無くなるという恐怖がどこかにあって、そのものの価値が分かっていると、このもったいないという言葉が出てくる。
- ・今から8～9年前出会った子供達、物のありがたさ、もったいないとか、ありがたいとかから、どんどん離れていっていた。
- ・特に食べること、食べ物に関しては大変な状態が年々浮き上がってきていた。  
米飯給食の日は、食器にご飯が一杯ついて残る。食べ散らかす、食べ物を落とす。それをもったいないと思う子供達ではなかった。
- ・食べるものが十分有り過ぎ、お腹がすいたことがない時代に育つ子供には、食べ物がどれだけ大切か、給食1食の後にどれだけ多くの人達の手が掛かっているのかが見えなくなっていた。
- ・食べる物があると言うことが当たり前でない、食べるものが無いということ子供達に実感させようと考えた取組が、学校教育の中でのサバイバル「給食を作ろう大作戦」。
- ・平成14年4月から導入された総合的な学習の時間を活用し、3年生から6年生が、自分たちが食べる給食を自分たちで作るという取組を行った。

- 条件 —
- 1 家からは何も持ってきてはいけない
  - 2 お金は1円もない
  - 3 先生は一切当てにならない ※自分たちでとにかく考えなさい。

サポート 地域のボランティアの100名

先生達の合い言葉 手出し、口出し、一切無用。子供達を信じて待ちましょう。

## ○苗の確保

子供達は、苗の確保に苦勞する中、登下校で見た、捨ててあった野菜の間引き菜を貰えるよう農家に頼んだところ、ハウスの中で大切に育てられた20種類の野菜の苗を貰うことが出来、子供達は喜び、ありがたいという気持ちを持った。

## ○畑作り

土がガチガチ、草がボウボウになっていた学校園畑を、子供達は一生懸命草を抜い

て耕して苗を植える準備をした。その時担任が、「手伝わせて下さい。」と言った。でも子供達に、このしんどさをあじあわせてこそ、あることが当たり前でないという感覚が育たないと信じ、その提案を押し止めた。

#### ○苗の管理

苗に水をやらず枯れかけたが、世話をしなければ育たないと言うことの根本を教えればいと助言しなかった。結局、6年生の女の子が気がつき、萎れた苗が翌日にはピーンと立ち直った。それを見た子供達は生きていたと言うことを実感できた。



#### ○野菜の生長

毎日世話をし、野菜は少しずつ変化をしていった。それを詳細に記録を取ることで、命がありその生長していく物を育てている気持ちを全員持った。

#### ○収穫

できすぎた野菜に子供達は困り果てる。命をかけて作った野菜が萎れ、腐り始める。もったいない。子供達は、これを売ることを思いつく。先生相手では捌ききれなくなって、また知恵を働かせた。参観日に売ろうという魂胆で、どこよりも安全で安心で、どこよりも安いので家庭に持って帰った。5500 円の売上を勝ち取る。そのお金で子供達が出来なかった動物性タンパク質、そして調味料を買った。

#### ○野菜の味

ほんの僅かしか出来なかった、ほうれん草。これをおひたしにして食べ、子供達は味わって、「甘いねえ先生、すごく美味しい」と言った。自分たちが育てたほうれん草にすごい愛着がある。ネギも針金のような物しかできなかったが、2ミリくらいの長さに刻んでお汁の浮き実にした。それを子供達が食べたとき、「ネギってこんなに良い香りがするんだ。美味しいねー」と言って食べた。

米を鍋で炊き、湯気に美味しいとどの子も言った。

・感想文には、「何を僕たちは今まで食べていたんだろう。野菜の命、米の命、そういうものを頂いて僕たちは食事をしているんだ。ありがとう、頂きますと言う意味が本当に良く分かった。」と書かれた。自然のありがたさ、それを作ってくれる人達への感謝、栄養士や調理員さんへの感謝を述べた。

・後日、NHK が取材した追跡という番組で、その当時6年生だった子がテレビのインタビューで言ってくれたこと、「僕たちはこの取組は本当に辛かった。ものすごいしんどい思いをしたが、どんな時代が来ても僕たちは生きて行けます。食べるものを自分たちで作る、それに感謝する気持ちがいかに大切かをこの体験を通して僕たちは学びました。」という言葉聞いたときに大変うれしい思いをした。

・今の子供はとつい言いがちだが、本質はちっとも変わってない。信じて待てば、子供達は自分たちが知恵を働かせ、生きていく力を身につけ、物事に対する感謝の気持ちをきつと持って行く。

## 2 意見交換

〔学生〕

・サッカー部で、サッカーを小学生相手に教えている。子供達には、君達を会場まで連れてきてくれる親御さんや、サッカーができる環境に感謝しなさいと強く訴えているが、子供達はそういうのに気づけない。話を聞いて、実感できる体験をすれば感謝の気持ちも勝ち取れるのかなと思ったし、僕も小学生でそんな体験をしたかった。

〔学生〕

・小さい頃から好き嫌いが多く、野菜が一杯ある給食が嫌いだった。話を聞いて、私も小学校の頃に同じような体験をしていたら今の自分は、もうちょっと食に、偏食に対する意識が変わっていたのではないかと思う。今の子供達にはそういう体験をしてもらい、私と同じような偏食が少なくなってもらいたい。



〔学生〕

・ボランティアをしていて、1泊2日の食育をテーマにした授業を作ることを考えている。1泊2日で、食育を子供に学んで欲しいと思っているが、どの程度まで子供に伝えることができますか。

〔東講師〕

・条件がよく分からないが、夕食の献立を作らせるのであれば、これを作ってみましょうとか、カレーにしましょうというのではなく、持ってきた野菜の中でできる物を考えさせ、条件として使える物はこれがある、必要な物はこの中で使って良いよというような方法もあるのではないか。

